

EBM 委員会特別企画

1. 漢方処方への引用元としての STORK : 英語論文作成のために

もとお よしはる
元雄 良治

金沢医科大学 腫瘍内科学

日本の医療用漢方エキス製剤を用いたランダム化比較試験 (RCT) などの臨床試験や症例報告を英語論文で投稿する場合、多くの読者は用いた漢方製剤を理解できないため、査読者の要求もあり、用いた漢方製剤を詳細に記載するために多くのスペースが使われてきた。

漢方の英語論文において、用いた漢方製剤を簡潔かつ完全に引用できるように、KCONSORT (Kampo-Consolidated Standards of Reporting Trials) が 2011 年に日本東洋医学会 EBM 委員会内で立ち上げられた。KCONSORT が CONSORT チェックリスト 25 項目のうちの Intervention (介入) の 1 項目しか扱っていないことなどから、改称することとなった。そこで呼びやすい名称を考え、STORK: Standards of Reporting Kampo Products とした。英語で stork はコウノトリを意味し、幸運を運んでくるので、海外に出しても好印象である。

STORK のウェブサイト (<http://mpdb.nibiohn.go.jp/stork/>) では日本で販売されている 148 種類の医療用漢方製剤の情報を英語で提供している。漢方製剤を用いた RCT やその他の臨床研究を論文として報告する際には、STORK の URL を引用すればよい。漢方製剤の添付文書情報の英語版は限られた製薬メーカーでしか作成されていないが、STORK では日本薬局方英語版のエキスの品質規格、日本漢方生薬製剤協会作成の全製品の添付文書情報の英語版が全て掲載されている。

日本の医療用漢方製剤の情報が 1 つのウェブサイトの引用で説明できることは、論文著者にとっては、書き方が統一され、余分な情報を記載する必要がなくなり、紙面の節約にもつながる。海外の読者や査読者にとっては STORK を介して日本の漢方製剤の情報にアクセスできるようになる。

2017 年 5 月に STORK を発表してから (Motoo Y, Hakamatsuka T, Kawahara N, Arai I, Tsutani K. Standards of Reporting Kampo Products (STORK) in research articles. J Integr Med 2017; 15 (3) : 182-5.)、いくつかの論文で STORK が用いられている : 1) Yanase T, et al. Traditional & Kampo Medicine 2017. 2) Takemoto H, et al. Biol. Pharm. Bull, in press.

今後も漢方製剤を使った臨床研究を英語論文で発表する際には、是非 STORK を引用して頂きたい。表記方法についてさらに改良を重ねて、いずれ処方ごとの URL や PDF を作成したい。

略歴

1980 年 東京医科歯科大学医学部医学科 卒業
1984 年 米国テキサス州ダラス・ワドレー分子医学研究所留学
1992 年 金沢大学がん研究所附属病院内科講師
2003 年 金沢大学がん研究所腫瘍内科研究分野助教授
2005 年 金沢医科大学腫瘍内科学主任教授 現在に至る
受賞
2006 年 日本東洋医学会学術奨励賞、
2008 年 武見記念生存科学研究基金武見奨励賞

著書

2007 年 全人的がん医療 (じほう)、
2015 年 腫瘍学 : 知っておきたいがんの知識とケア (じほう)、
2017 年 まるごとわかる! がん (南山堂)